

## 各分科会担当者から…

### 【第1分科会】より

千葉市内には、東京湾に流れる河川が多く、印旛沼への関心は薄くなりがちである。しかし、水道水源の一つとしての印旛沼の存在は欠かさない。分科会は、千葉市内の河川を主に活動する市民団体の方々と準備を行ってきた。印旛沼の状況等を知ることから「めぐりめぐる印旛沼の水!」を実感した。参加者から「身近な人に印旛沼の状況を知らせたい」「生活排水に気をつけたい」「印旛沼浄化に向けての活動に参加したい」等、意見があった。今後、印旛沼に関心を持つ人が増え、活動が広がることを期待する。

### 【第2分科会】より

こと環境対策とはとにかく数の勝負である。参加率6割越すことができるような取り組みこそ求められている。そのためには、既存の価値観に囚われないこと。参加率が1割台で止まっている原因は、1割の感性に合わせてきた結果である。私たちは家庭排水対策の切り札として、「食器ふき取り専用紙ふきとーる」の普及を進めることとした。メダカが戻る川を再生するために古紙を有効活用するというもの。子どもたちにも共感いただくよう、かわいらしいカップの応援キャラクターも準備した。6割に目を向けた施策への転換を早急に図るべきと考える。

### 【第3分科会】より

川づくり、人づくり、地域づくりについての基調講演に続き、千葉市の里山における市民活動や川の再生における活動紹介、八千代市における協働による川づくりが紹介された。人が集える「川の駅」、②川に関連した活動している市民団体のマップ作成、③アダプト制度の輪の拡大と協働による川づくりに関する仕組みづくり、が提案された。

### 【第4分科会】より

①日本の食料自給率の低下、②全国的な耕作放棄地の増加、③農業就業人口の減少、④農薬・化学肥料等による水環境への影響、を取り上げ『食料・農業・水環境』を考えた。

①～③については、食料主体を米の食生活に戻す事で地域の農業振興を図り"安全・安心な生産"でこれを叶える。"消費者が生産者を支える事"で、千葉県民全ての人に関係することを認識させる。④については、無農薬・有機肥料で耕作した田に多様な生物が戻ってきたことから、田を通じて子ども達に自然の大切さを伝えて行く。などが提案された。

### 【第5分科会】より

全員参加型で、駅前の通行人に「印旛沼は私たちの飲み水です。」と言って、水質改善グッズを配布する役割を果たしたことへの充実感があつた。実践後の話し合いでは、市民の反応や、呼びかけ方、時間を稼ぐ方法、物を準備した強み、チーバ君の愛らしさ、みんなが勇気を出して呼びかけた、市民に水質改善グッズを使ってもらえることなどを明るく捕らえ次回につないだ。

### 【わいわい会議準備会メンバー(順不同)】

(財)印旛沼環境基金、印旛沼土地改良区、谷当グリーンクラブ、ちば市ネイチャーゲームの会、NPO法人印旛沼広域環境研究会、環境パートナーシップちば、NPO法人八千代オイコス、下泉・森のサミット、NPO法人とんぼエコオフィス、印旛沼を考える女性交流会、NPO法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ、坂月川愛好会、NPO法人都川の環境を考える会、都川源流の自然再生をはかる会、NPO法人ちば環境情報センター、合成洗剤をやめて石けんを広める千葉県連絡会、印旛沼流域水循環健全化会議

【事務局】 千葉県県土整備部河川環境課・環境生活部水質保全課

【連絡先】 〒260-8667 千葉県千葉市中央区市場町1-1 Tel.043-223-3155 Fax.043-221-1950  
kawakan2@mz.pref.chiba.lg.jp (千葉県県土整備部河川環境課)

# 印旛沼 わいわい会議

in ちば

平成19年11月25日(日)  
千葉市文化交流プラザ  
にて開催しました!!

## めぐりめぐる印旛沼の水!

.....平成19年度 開催報告書.....



### ☆印旛沼の現状と緊急行動計画☆

印旛沼は、流域の土地利用の変化や生活スタイル等の変化により水質が悪化するとともに、湧水や川の水量の減少、多様な生物が生息する水辺地の減少、洪水の発生などの問題も生じています。

そこで、千葉県では平成16年2月に「恵み豊かな印旛沼の再生」を目指し、できることから実行に移し、全員で取り組むため『印旛沼流域水循環健全化 緊急行動計画』を策定しました。



### 緊急行動計画の目標

この計画について、みなさんに知っていただき、一緒に行動していくため、市民の皆さんと意見交換会を開催しています。

### ☆印旛沼わいわい会議の開催☆

この計画の策定後、印旛沼の再生に向けて皆が一緒に行動していくため、平成16年度から市民・NPOの方々と行政が一同に会して、文字通り「わいわい」話し合う「わいわい会議」を開催しています。

### 【過去の開催状況】

- ・平成16年度：平成16年11月10日 佐倉市中央公民館
- ・平成17年度：平成17年10月25日 八街市中央公民館、平成17年11月5日 八千代市役所
- ・平成18年度：平成18年10月27日 船橋市北部公民館、平成18年11月9日 成田国際文化会館

### ☆今年のわいわい会議の目的☆

- (1) 印旛沼の水環境をよりよくするために、みんな\*でわいわい話し合おう。
- (2) 健全化会議への提言をしよう。 \*みんな=流域の市民や行政ほか全ての主体

主催：印旛沼流域水循環健全化会議

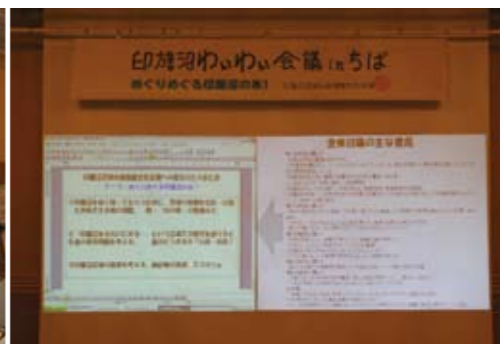




# 印旛沼 in ちば ゆいゆい会議

## めぐりめぐる印旛沼の水！

日時：平成19年11月25日(日)  
場所：千葉市文化交流プラザ  
参加数：約170名



### 【第1分科会】

## 「印旛沼をもっと知ろう」

水質汚濁の原因としては一般家庭などの生活系、水田や市街地などの自然系等があげられます。千葉市民にとって、水道水源のひとつである印旛沼は、いま、どのような状況に置かれているのでしょうか？

印旛沼を知ることによって印旛沼をより身近に感じ、そして水質浄化に向け、私たちにできることは、“何か”を考える場にしたいと思います。

### 《第1分科会のまとめ》

- ①印旛沼にもっと関心を持つ人を増やす。
- ②環境に関与していることを認識し、身近なところからできることを進める。
- ③エコ農業を進め、グリーンコンシューマーを増やす。
- ④面源対策の検討を願う。



### 【第2分科会】

## 「飲み水の源、生活排水浄化作戦！」

飲み水の源である印旛沼のために、生活排水の汚濁をどうへらすのか？“生活排水浄化作戦会議”を行います。講演、利き水、水質実験などを行い、飲み水である印旛沼について話し合います。

### 《第2分科会のまとめ》

- ①利根川全体をきれいに！
- ②二度洗いのすすめ、一度洗いを庭で使う！
- ③排水処理技術の改善。
- ④有償の市民事業としての責任を持つ。
- ⑤外国の水よりも地域の水を飲もう！
- ⑥市民レベルの力を結集。
- ⑦捨てるものを利用して、汚れを除去。
- ⑧流した人が使う人。



### 【第3分科会】

## 「川と里山の水環境を考えよう ～川づくり・人づくり・地域づくり～」

恵み豊かな印旛沼の再生に向け、“川づくり、人づくり、地域づくり”を通して、川と里山を皆さんと一緒に考え、提案をしていきます。

### 《第3分科会のまとめ》

- ①行政・市民が一丸となって、アダプト制度を流域で推進。
- ②川へ係わる活動マップを作成し、印旛沼と市民の関係を示す。
- ③里親制度を拓げる“協働”を考える。



### 【第4分科会】

## 「食・農・いのち」

65才以上の農家人口が約60%となり、全国的に耕作放棄地が増加、農業就業人口の減少も手伝い、農業・農村の持つ多面的機能を維持することが困難となりつつある。また、私たちが生活するのに必要な水の約4倍の640億トン余りを輸入する水の輸入大国であり、食料の生産に必要な肥料(チッソ・リン酸・カリ)の輸入大国ともなっている。

このような厳しい私たちの食料・農業・水環境のなかで『安全・安心な食糧の確保と水を中心とした豊かな自然環境を次の世代に引き継ぐために、私たちひとりひとりが何をすべきか？』をテーマとした分科会を設けた次第です。

### 《第4分科会のまとめ》

- ①多面的機能・水  
(バーチャルウォーター)
- ②食育(小学校)のススメ・田・畑で体験学習
- ③水の質(飲み水を買う地域)
- ④チバエコ  
(JAちばみらいー指導・販売)



### 【第5分科会】 駅前キャンペーン

## 「印旛沼は私たちの飲み水」

印旛沼の水が水道水の源であることを、街頭(千葉駅前)へ出て千葉市民へ向けて広報活動を行います。

### 《第5分科会のまとめ》

- ①初めて会場の外でキャンペーンを実施し、水質改善グッズを配布。
- ②手渡しチラシの工夫が必要。(飲み水であることを伝えたい)
- ③チーバ君は大人気。テーマソングが欲しい。
- ④1,000人に話しかけて配布。



### 【全体討論】

各分科会からの「まとめ」の報告、参加者からの意見・提案などを発表していただき「健全化会議への提言」をまとめました。

### 《ちば会場からの提言》

- ①印旛沼を良く知ってもらうために、流域の情報を住民・企業・NPO・行政と共有できる場の設置。例：「川の駅」の整備など。
- ②「印旛沼をきれいにする…」という立場で次世代を担う子ども達の教育問題を考える。  
学校及び地域を通して啓発活動(家庭からの生活排水対策の実施)の実践。
- ③印旛沼流域の農業を考える。  
農産物の流通、エコ農業の具体的な推進。

\*実施の具体的な方策を検討することを付記する。



提言の授受